CASIO

業務メニュー・エディタ

操作マニュアル

このマニュアルは、業務メニュー・エディタ［Active Menu Spec Editor］の操作方法について記載します。

Ver. 1.00

ご注意

- このソフトウェアおよびマニュアルの、一部または全部を無断で使用、複製することはできません。
- このソフトウェアおよびマニュアルは、本製品の使用許諾契約書のもとでのみ使用することができます。
- このソフトウェアおよびマニュアルを運用した結果の影響については、一切の責任を負いかねますのでご了承ください。
- このソフトウェアの仕様、およびマニュアルに記載されている事柄は、将来予告なしに変更することがあります。
- このマニュアルの著作権はカシオ計算機株式会社に帰属します。
- 本書中に含まれている画面表示は、実際の画面とは若干異なる場合があります。予めご了承ください。

© 2013 カシオ計算機株式会社

Microsoft, MS, Windows Media Player, Windows, Windows XP, Windows 7 は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。Microsoft 社の製品は、OEM 各社に、Microsoft Corporation の 100%出資子会社である Microsoft Licensing, Inc.によりライセンス供与されています。

変更履歴

バージョン	日付	ページ	説明
1.00	2012.12.12		新規作成

※　本文中の記載について、特に注釈のない限り、ハードウェアおよびプラットフォームを以下のとおり記載します。

Windows	Windows XP SP3 32bit, Windows7 SP1 32/64bit
MediaPlayer	Windows XP SP3 の場合、Ver10 以上 Windows7 SP1 の場合、Ver12 以上
PC	上記 Windows OS を搭載した IBM/PC AT 互換 PC
端末	業務メニューが動作する端末

端末アプリケーション	端末で動作する業務アプリケーション
PC アプリケーション	PC で動作する業務アプリケーション

目次

1. 概要……4
1.1 動作環境……4
1.2 業務メニュー・エディタのインストール……4
1.3 業務メニュー・システムの概要……4
1.4 業務メニュー・エディタの構成……6
1.5 業務メニュー作成手順……7

2. 詳細な機能説明……10
2.1 メインメニューの使い方……10
2.2 階層表示エリアの使い方……11
2.2.1 業務メニュー階層の作成……11
2.2.2 表示位置の決定……12
2.3 プロパティエリアの使い方……13
2.3.1 プロパティの説明……13
2.3.2 プロパティの設定例……14
2.4 ステータスエリアの使い方……14

3. 端末への登録……15
3.1 スペック・ファイル名の規則……15
3.2 ファイルの登録方法……15
3.2.1 USB ケーブルでの接続と登録方法……15
3.2.2 外部メモリデバイスでの登録方法……18

1. 概要

本書は、業務メニュー・エディタの操作方法について説明します。

1.1 動作環境

スペックの作成は、PC で行います。

項目	内容
ハードウェア	Windows PC
動作確認ＯＳ	Windows XP SP3, Windows7 SP1
必須ソフトウェア	.NET Framework 3.5 以上　（注１）

（注1）Windows XP SP3 以降では標準搭載されていますので、特に追加インストールする必要はありません。

1.2 業務メニュー・エディタのインストール

PC に下記の手順で業務メニュー・エディタをインストールします。

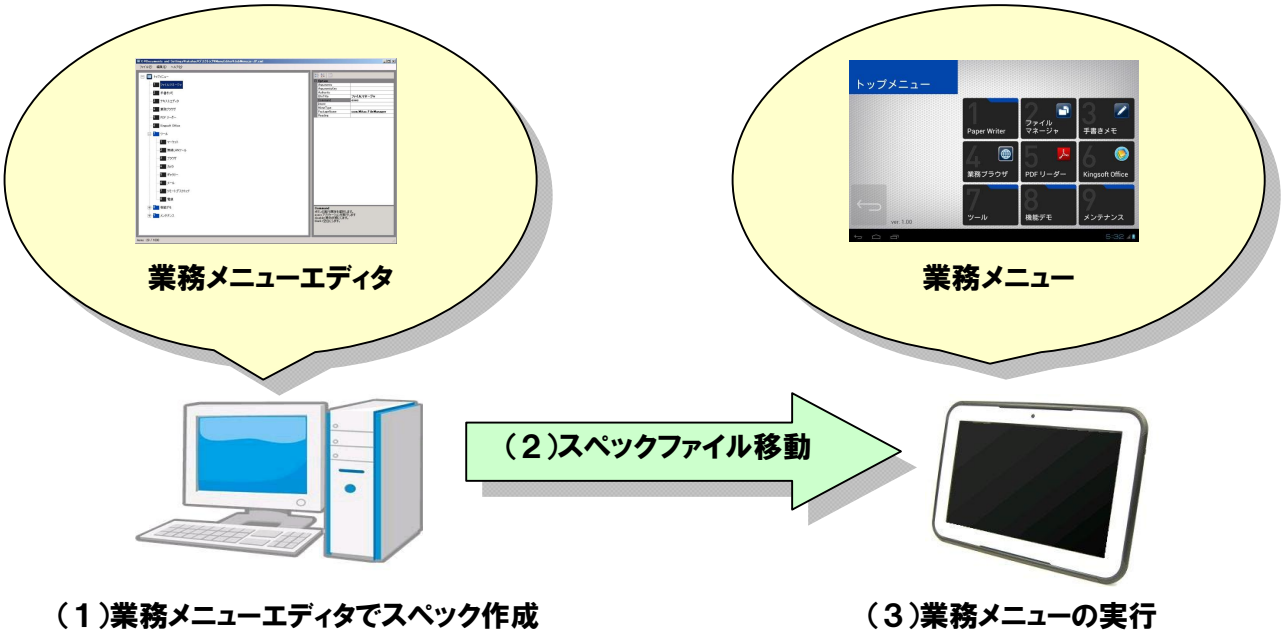
手順	作業
1	ActiveMenuEditor フォルダ内の Setup.exe を起動
2	表示されるダイアログに従い、インストールを実行

1.3 業務メニュー・システムの概要

業務メニューは、業務ソフトウェアを起動する為のメニュー・システムです。

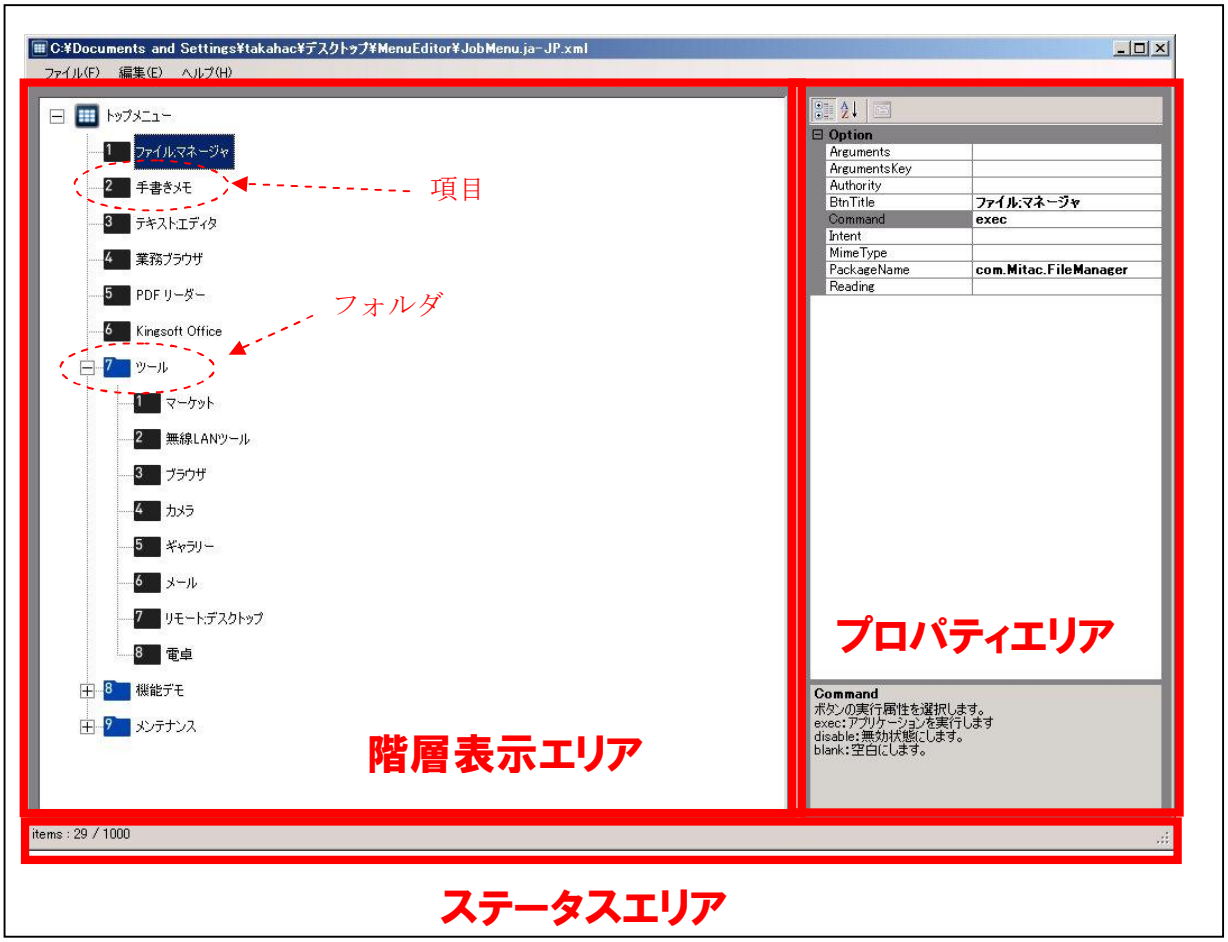
業務メニュー

ホームアプリとして動作し、工場出荷状態ではプリインストールしているソフトウェアを起動することができます。
業務メニュー・エディタは、業務メニューの表示内容を定義し、スペック・ファイルとして出力します。 スペック・ファイルを端末に登録することで、お客様システムに合わせ業務メニューをカスタマイズすることが出来ます。



1.4　業務メニュー・エディタの構成

業務メニュー・エディタの構成とそれらの働きを説明します。



業務メニュー・エディタ

業務メニュー・エディタの画面は、3 つのエリアで構成しています。 これら画面を操作し、業務メニューのスペック・ファイルを作成します。

■　階層表示エリア

階層表示エリアでは、業務メニュー階層を作成します。 業務メニュー階層は、フォルダ及び項目（実行するソフトに関連付けるメニュー項目）を、ツリー状に分類したものです。

■　プロパティエリア

フォルダ及び項目の属性情報を作成します。

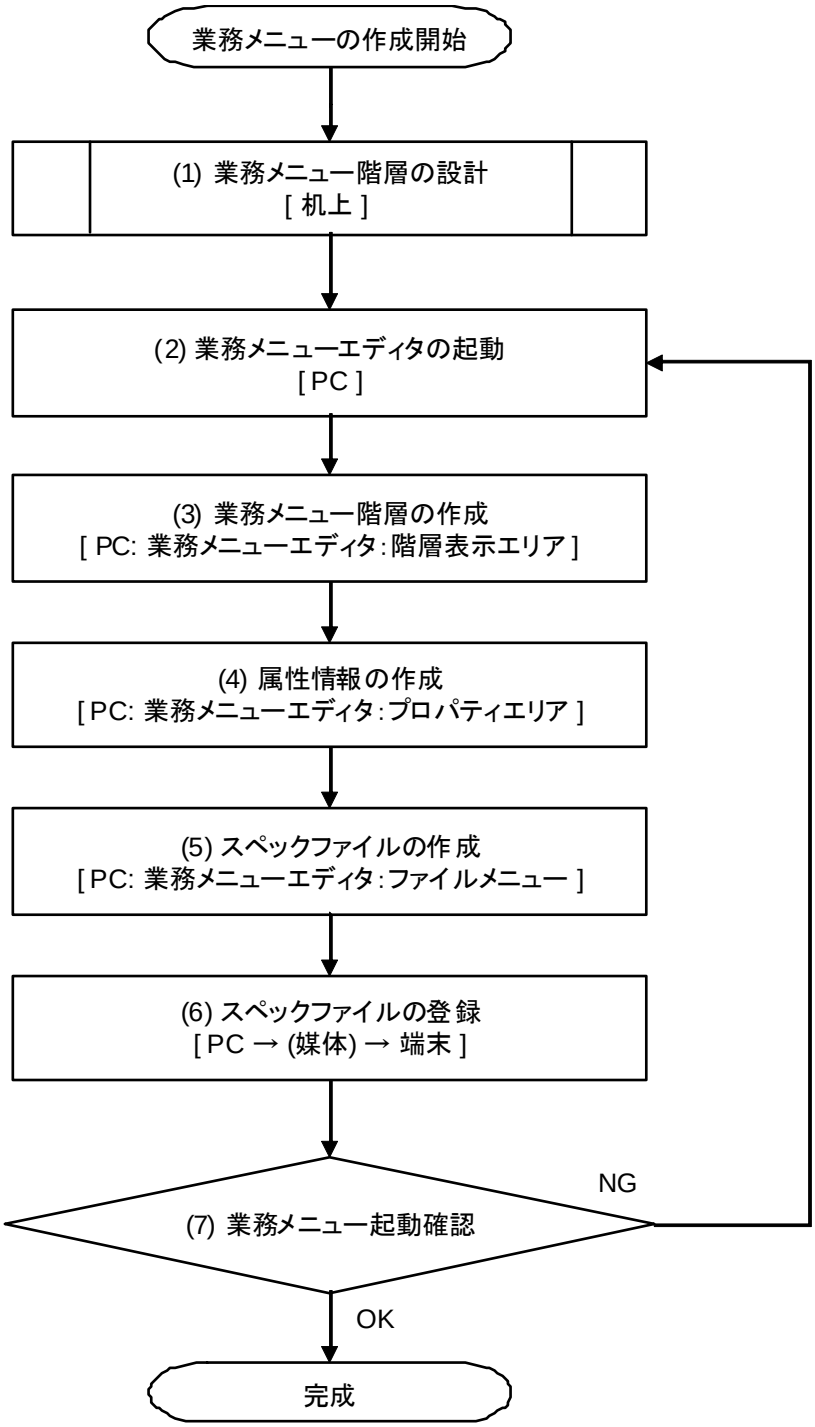
階層表示エリアで選択したフォルダ及び項目の属性情報を編集することが出来ます。

■　ステータスエリア

編集中のアイテム数を表示します。

1.5 業務メニュー作成手順

業務メニューを作成する手順を説明します。



業務メニューの作成フロー

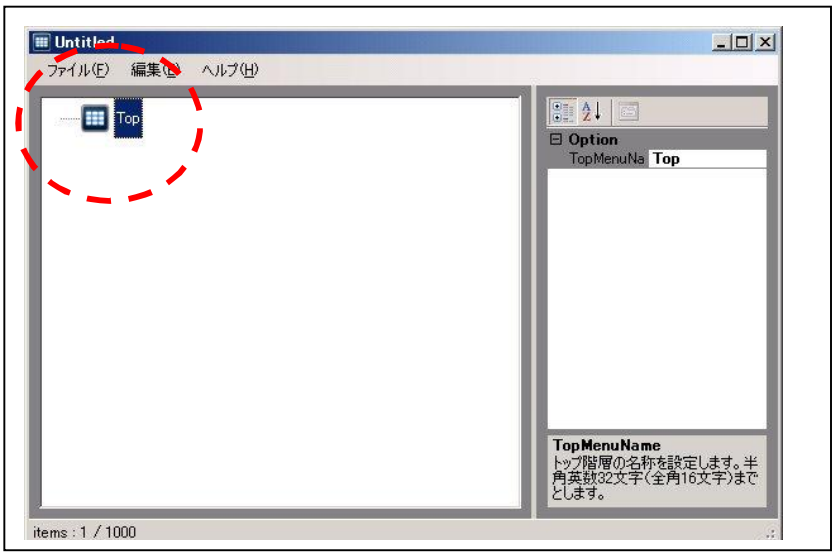
(1) 業務メニュー階層の設計
メニュー項目（実行するソフトウェア）をリストアップし、業務メニュー階層含めてどのような業務メニューを構築するかを設計します。

(2) 業務メニュー・エディタの起動
PC上で業務メニュー・エディタを起動します。
Windows スタートメニューに

[CASIO]-[Android Active Menu Spec Editor]

が登録されていますので、[Active Menu Spec Editor]を起動してください。

(3) 業務メニュー階層の作成
設計した業務メニュー階層を、業務メニュー・エディタの階層表示エリア上で構築します。 ツールを立ち上げると、Top アイコンのみが階層表示エリアに表示されます。



Top アイコンを選択し、編集メニューを押下します。 プルダウンメニューの「追加」で、フォルダまたは項目を作成し業務メニュー階層を完成してきます。
（2.2　階層表示エリアの使い方参照）

(4) 属性情報の作成
作成したフォルダと項目の属性をそれぞれ選択し、プロパティエリア上で各プロパティ項目を設定します。
（2.3. プロパティエリアの使い方参照）

(5) スペックファイルの作成
業務メニュー・エディタの「ファイル(F)」から、「名前を付けて保存」を選び、スペックファイルを保存します。
（2.1. メインメニューの使い方参照）

(6)スペックファイルの登録

(5)で作成したスペックファイルを下記ファイル名で端末に登録してください。

/mnt/sdcard/MenuXml/JobMenu.xml

(3. 端末への登録参照)

(7)業務メニュー起動確認

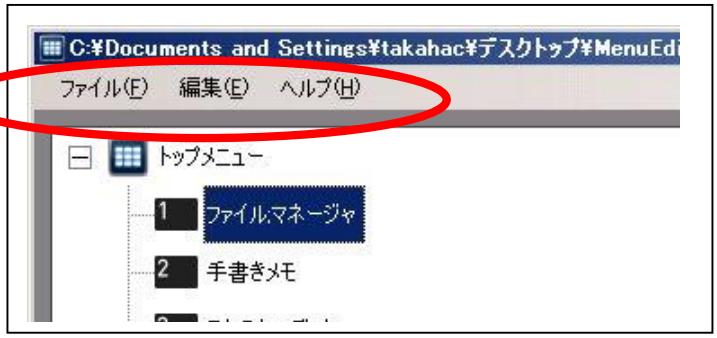
登録したスペック・ファイルが、設計した内容と一致しているかを確認します。

メニュー・スペック変更後は本体の再起動が必要です。 再起動後に業務メニューを確認します。

2. 詳細な機能説明

2.1 メインメニューの使い方

業務メニュー・エディタの上部には、常時メインメニューが表示されています。



メインメニュー

■ ファイル(F)

プルダウンメニュー項目	ショートカットキー	動作説明
新規作成 (N)	Ctrl+N	新規に業務メニュー・スペック・ファイルを作成します。作成するフォルダとファイル名を指定するダイアログが表示されます。
開く (O)	Ctrl+O	既存の業務メニュー・スペックを読み込みます。フォルダとファイルを選択するダイアログが表示されます。
保存 (S)	Ctrl+S	変更した業務メニューの内容を、現状開いているファイルに書き込みます。
名前を付けて保存		現状開いているファイルとは別のファイル名で書き込みます。
終了 (X)		業務メニュー・エディタを終了します。業務メニューに変更が加えられている場合は、変更内容を保存するかどうかの警告ダイアログが表示されます。

■ 編集(E)

プルダウンメニュー項目		ショートカットキー	動作説明
追加(A)	フォルダ		選択しているフォルダ或いは項目に、業務メニュー階層を構成するフォルダを作成します。
	項目		選択しているフォルダ下に、項目を作成します。項目ごとに起動するソフトウェアを対応づけます。(プロパティエリアの使い方を参照してください)
移動(M)	上へ(U)	Ctrl+UP	選択しているフォルダ或いは項目を、同階層内で1項目分順序を上に移動します。
	下へ(D)	Ctrl+DOWN	選択しているフォルダ或いは項目を、同階層内で1項目分順序を下に移動します。
削除(T)		Ctrl+X	選択しているフォルダ或いは項目を削除します。
コピー(C)		Ctrl+C	選択しているフォルダ或いは項目をコピーします。
ペースト(P)		Ctrl+V	選択しているフォルダ或いは項目をペーストします。

■ ヘルプ(H)

プルダウンメニュー項目	ショートカットキー	動作説明
バージョン		業務メニュー・エディタのバージョンを表示します。

2.2 階層表示エリアの使い方

2.2.1 業務メニュー階層の作成

階層表示エリアでは、業務メニュー階層をフォルダと項目の並びで表示します。初期状態では、メニューのトップ階層（Top アイコン）のみ表示されていますので、選択し編集（E）メニューを押下するか、マウスで右クリックすることで、編集メニューから業務メニュー階層を作成します。

業務メニュー・エディタ： 初期状態

■ 編集（E）

プルダウンメニュー項目		ショートカットキー	動作説明
追加（A）	フォルダ		選択しているフォルダ或いは項目に、業務メニュー階層を構成するフォルダを作成します。
	項目		選択しているフォルダ下に、項目を作成します。項目ごとに起動するソフトウェアを対応づけます。 （プロパティエリアの使い方を参照してください）
移動（M）	上へ（U）	Ctrl+UP	選択しているフォルダ或いは項目を、同階層内で 1 項目分順序を上に移動します。
	下へ（D）	Ctrl+DOWN	選択しているフォルダ或いは項目を、同階層内で 1 項目分順序を下に移動します。
削除（T）		Ctrl+X	選択しているフォルダ或いは項目を削除します。
コピー（C）		Ctrl+C	選択しているフォルダ或いは項目をコピーします。
ペースト（P）		Ctrl+V	選択しているフォルダ或いは項目をペーストします。

初期状態では、編集するフォルダ及び項目がありませんので、追加のみが可能です。フォルダ又は項目を追加することが出来ます。 フォルダ及び項目が追加された後は、編集メニューすべてが選択可能となります。 フォルダ及び項目を追加すると、それぞれのアイコンが表示されます。

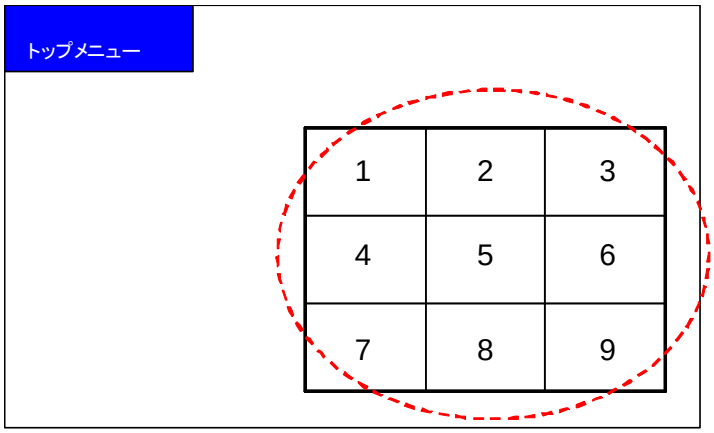
フォルダアイコン

項目アイコン

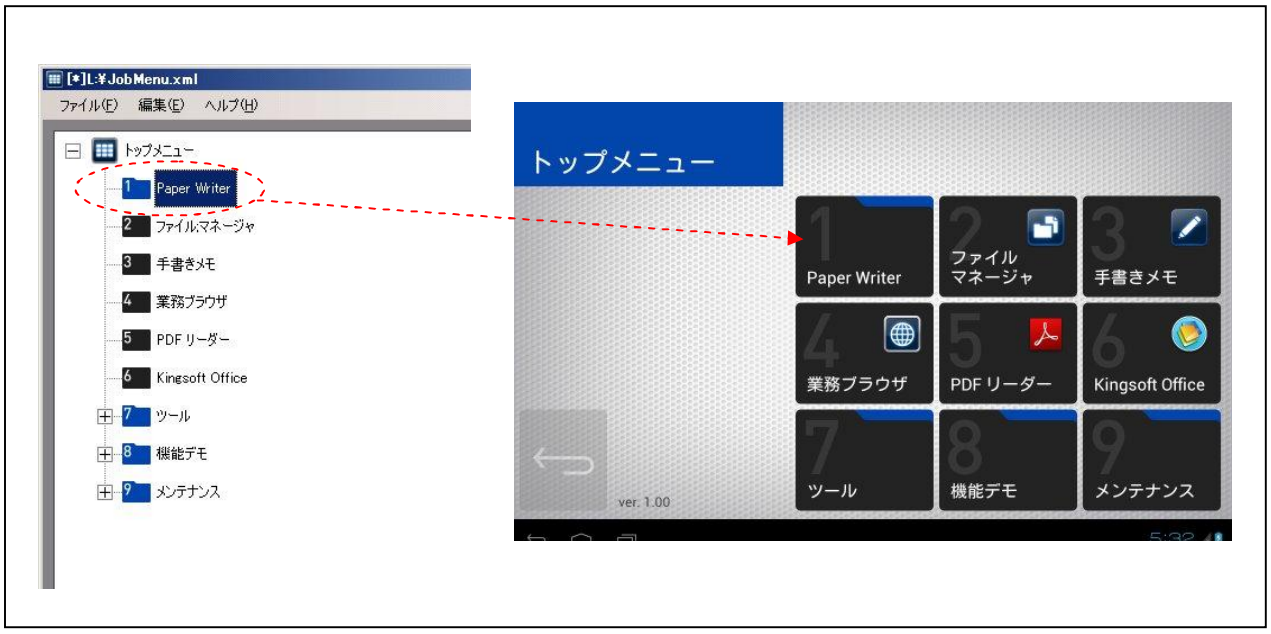
2.2.2　表示位置の決定

フォルダ及び項目アイコンには、業務メニュー上の連番が表示されます。連番はフォルダ及び項目の表示位置を示します。

■　連番と業務メニュー上の表示位置



■　表示例



連番を変更する場合は、編集(E)メニューの「移動(M)」でアイコンの並びを修正します。

2.3 プロパティエリアの使い方

2.3.1 プロパティの説明

階層表示エリアで作成したフォルダと項目の属性情報を設定することが出来ます。

<table>
<tr><th>プロパティ名</th><th colspan="2">説明</th></tr>
<tr><td>Arguments</td><td colspan="2">実行するソフトウェアに渡す引数です。
ArgumentsKey と共に指定します。</td></tr>
<tr><td>ArgumentsKey</td><td colspan="2">実行するソフトウェアに引数を渡す場合に指定する引数のキーです。
Arguments と共に指定します。</td></tr>
<tr><td>Authority</td><td colspan="2">（未使用）予約パラメータです。</td></tr>
<tr><td>BtnTitle</td><td colspan="2">メニューボタンに表示する文字列です。
・改行表示機能
メニューボタン内で改行を行う場合は、セミコロン「;」を挿入してください。</td></tr>
<tr><td rowspan="4">Command</td><td>exec</td><td>Intent と MimeType で処理対象とソフトウェアを指定し実行します。
又は、PackageName でソフトウェアを指定し実行します。</td></tr>
<tr><td>menu</td><td>次階層を表示します。
フォルダを作成した場合に自動的に設定されます。
項目では指定できません。</td></tr>
<tr><td>blank</td><td>項目を非表示にします。</td></tr>
<tr><td>disable</td><td>項目を選択不可能にします。</td></tr>
<tr><td>Intent</td><td colspan="2">実行するソフトウェアの処理対処を指定します。
Mime Type と共に指定します。</td></tr>
<tr><td>Mime Type</td><td colspan="2">実行するソフトウェアのマイムタイプを指定します。
Intent と共に指定します。</td></tr>
<tr><td>PackageName</td><td colspan="2">実行するソフトウェアを指定するパッケージ名称を指定します。
・Intent と Mime Type で処理対象を指定した場合は、メニューボタンに表示するアイコン情報を取得する為に使用されます。
・パッケージ名はソフトウェア配布形式に含まれる AndroidManifest.xml に含まれており、ソフトの配布元で決定押されるものです。</td></tr>
<tr><td>Reading</td><td colspan="2">（未使用）予約パラメータです。</td></tr>
</table>

2.3.2　プロパティの設定例

■　使用例1：　ブラウザで、http://casio.jp を表示するメニューのプロパティ例

プロパティ名	説明
Arguments	
ArgumentsKey	
Authority	
BtnTitle	ブラウザ
Command	Exec
Intent	http://casio.jp
Mime Type	text/html
PackageName	com.android.browser
Reading	

- メニューボタンに「ブラウザ」と表示します。
- http://casio.jp を Mime Type が text/html であるソフトウェア（ブラウザ）を実行します。
- メニューボタンに表示するアイコンは、com.android.browser より取得します。

■　使用例2：　ギャラリーを起動するメニューのプロパティ例

プロパティ名	説明
Arguments	
ArgumentsKey	
Authority	
BtnTitle	ギャラリー
Command	Exec
Intent	
Mime Type	
PackageName	com.android.gallery3d
Reading	

- メニューボタンに「ギャラリー」と表示します。
- 端末にインストールされているソフトで、パッケージ名が com.android.gallery3d を実行します。
- メニューボタンに表示するアイコンは、同じく com.android.gallery3d に含まれたアイコンを表示します。

2.4　ステータスエリアの使い方

ステータスエリアには、以下の情報を表示します。

項目	内容
アイテム数	フォルダと項目の設定可能な上限数と現状の数を表示します。

3. 端末への登録

3.1 スペック・ファイル名の規則

業務メニューは、固定名のスペック・ファイルを読み込んでメニュー表示を行います。 必ず下記のファイル名称でファイルを端末に登録する必要があります。

/mnt/sdcard/MenuXml/JobMenu.xml

3.2 ファイルの登録方法

端末にスペック・ファイルを登録する方法は、USB ケーブルでPCと端末を接続しファイルを転送する方法と、PC で USB メモリや SD カードにスペック・ファイルを書き込み、端末で読み出す方法があります。

3.2.1 USB ケーブルでの接続と登録方法

■ Android Debug Bridge (ADB)での接続

ADB で接続する場合、別途 Android SDK 等ソフトウェアの開発環境を PC にインストールする必要があります。「基本ソフト開発キット」に納められた「ファーストステップガイド」を参照の上、開発環境のインストールを行います。

PC 上の ¥tmp フォルダに、スペック・ファイル［JobMenu.xml］ がある場合、コマンドプロンプトを起動し下記コマンド（赤文字）を入力実行します。

青文字の部分（転送速度）が出力されれば正常に登録が成功しています。

```
C:¥tmp> adb shell
shell@android:/ $ cd /mnt/sdcard
shell@android:/ $ mkdir MenuXml
shell@android:/ $ exit
C:¥tmp> adb push JobMenu.xml /sdcard/MenuXml/JobMenu.xml
7 KB/s (8168 bytes in 1.000s)
C:¥tmp>
```

端末に接続

フォルダの作成

ファイルの転送

端末をPCのストレージとして接続

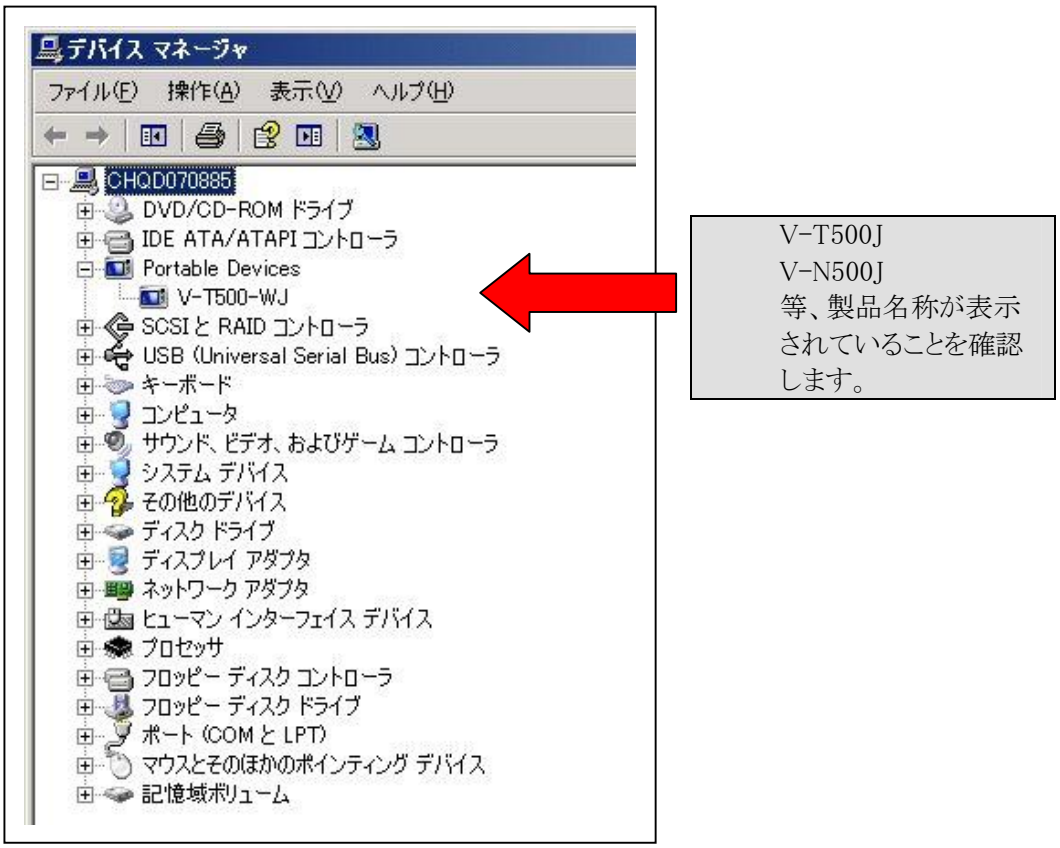
Media Transfer Protocol (MTP)で接続する必要があります。
MTP で接続する場合、Windows XP SP3 の場合、Windows Media Player が必要です。

マイクロソフトのダウンロードサイト
http://windows.microsoft.com/ja-JP/windows/download-windows-media-player
からダウンロードしてください。

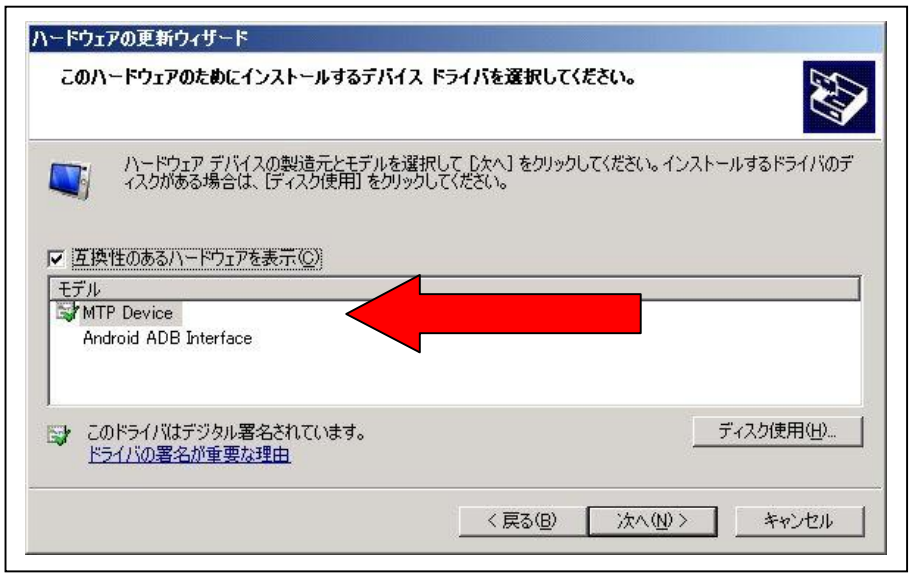
OS	インストールの必要性
Windows XP SP3	Windows Media Player Ver.10 以上のインストールが必要
Windows 7 SP1	インストールは必要ありません

端末側で、「設定」ー「開発者向けオプション」で「USB デバッグ」のチェックが外れていることを確認します。

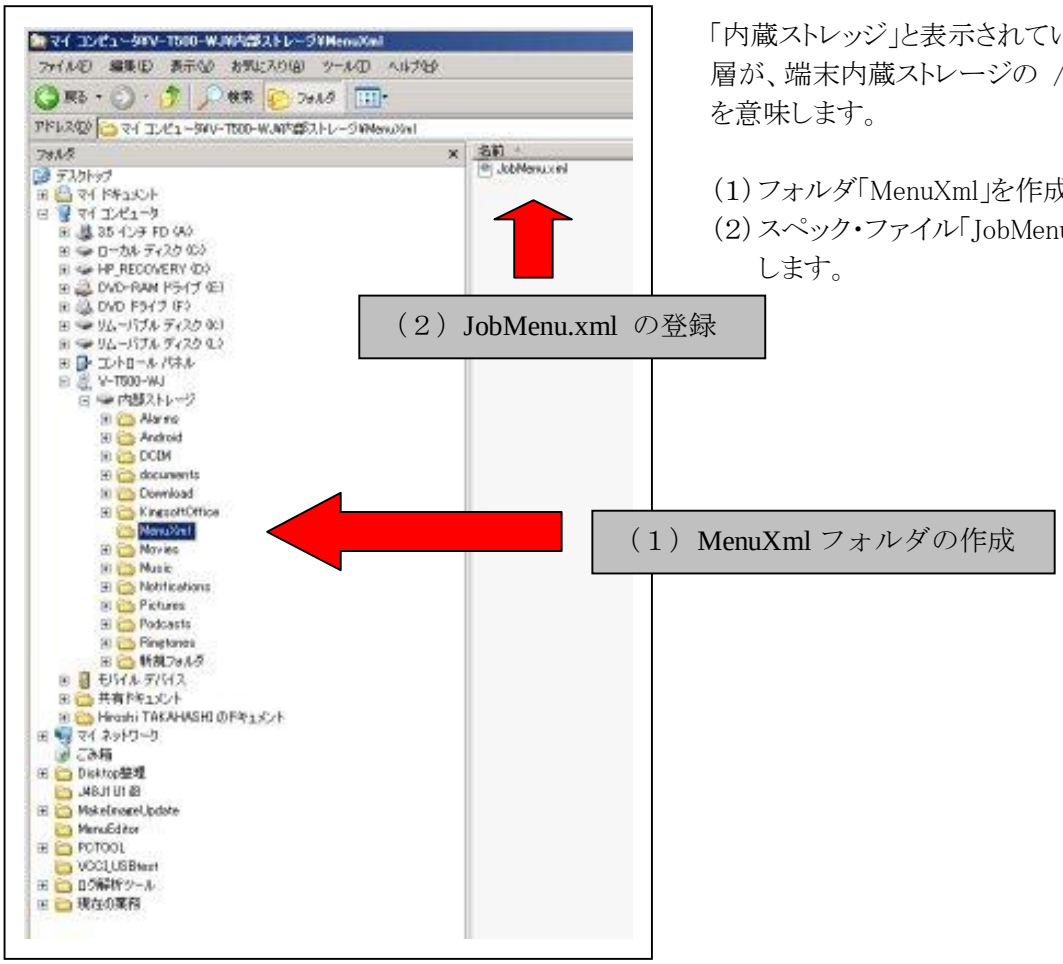
PC側のデバイスマネージャで、MTP ドライバがロードされていることを確認します。下図のように、ポータブル・デバイスとして表示されます。



MTP ドライバがロードされていない場合は、デバイスマネージャでドライバを更新します。
「ハードウェアの更新ウイザード」で、「検索しないで、インストールするドライバを選択する」を指定し、下図のように MTP ドライバを指定してインストールします。



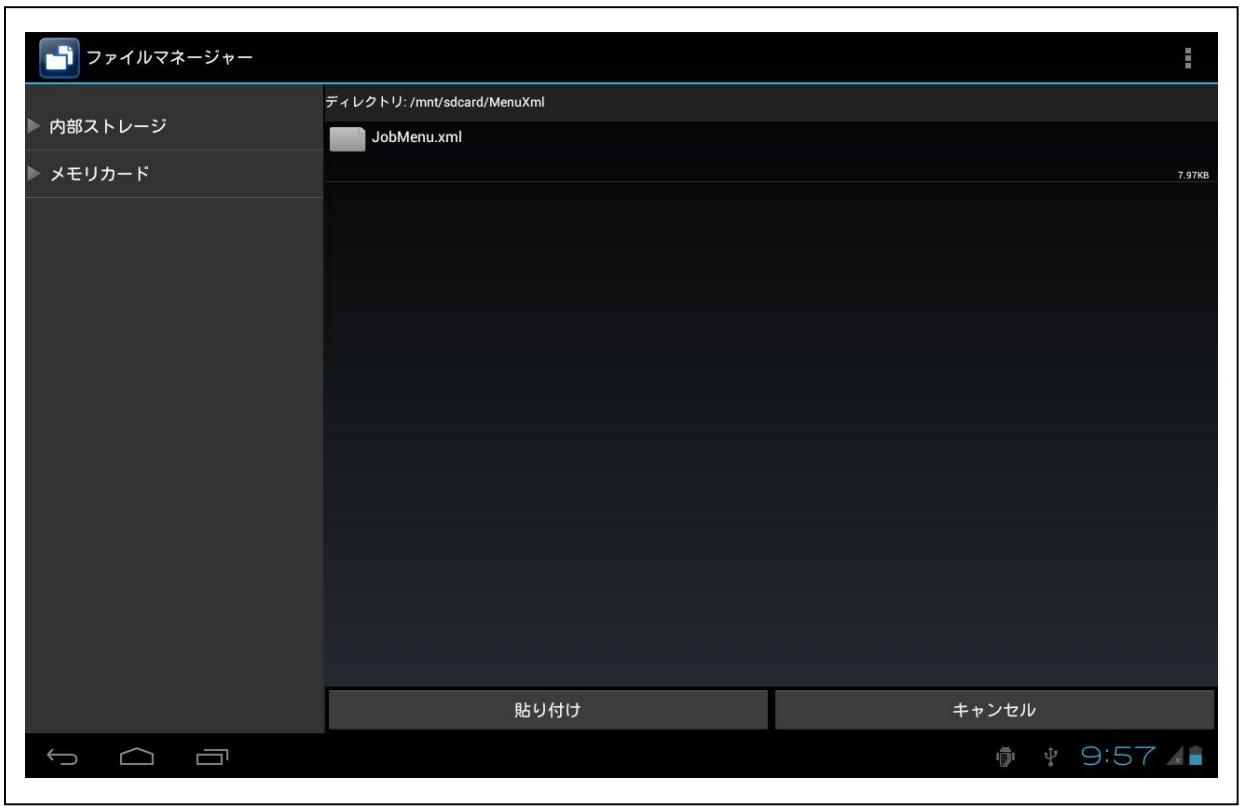
正しくドライバがロードされると、マルチメディアデバイスとしてファイルエクスプローラから参照が可能となります。



「内蔵ストレッジ」と表示されているフォルダ階層が、端末内蔵ストレージの /mnt/sdcard を意味します。

(1) フォルダ「MenuXml」を作成します。
(2) スペック・ファイル「JobMenu.xml」を登録します。

3.2.2　外部メモリデバイスでの登録方法

PC上で作成したスペック・ファイルを、SDメモリ或いは USB メモリに書き込み、端末で読み込み登録します。

端末にメモリデバイス挿入後、「ファイルマネージャ」を起動します。
「メモリカード」または「USBストレージ」から、スペックファイルをコピーし、内蔵ストレージの
/mnt/sdcard/MenuXml フォルダを作成し貼り付けます。